

令和3年度 藤枝順心中学校・高等学校 学校評価(前期) (評価規準 A:十分に実践されている B:ある程度実践されている C:不十分である D:分からない)

建学の精神 女性の自律・自主と先度他の心の涵養						
教育目標 白梅精神のもと、「清楚な生徒」、「芳香を発する生徒」、「忍耐のできる生徒」を育てる。						
本年度の重点目標 ①学習指導の充実 ②進路指導の充実 ③生活指導の充実 ④情報発信の充実 ⑤健康管理 ⑥安全管理						
重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
①学習指導の充実	アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試改革に向けて、アクティブラーニング、ICTを利用した授業を実践する。(国・地公・数・理・英による研究授業を行い、全職員で授業検討を行う) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板があるクラスでは、デジタル教科書やパワーポイントを使ったが、未設置のクラスでは、ICTの利用ができていない。 YouTube等に映像素材が多数あり、授業の補助として利用しやすい。全教室に電子黒板が整えば、さらに積極的に活用できる。 アクティブラーニングは、「探究」要素の取り入れやグループワーク内の討論の部分での指導が足りておらず、改善を要する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信技術の活用は必須に思われます。各教科において情報共有を密にして取り組んでいただけるよう期待します。 電子黒板の使用については、早期の全教室導入をお願いしたい。 アクティブラーニングについては、外部講師を招く、研修へ参加するなどが必要になると思います。 軌道に乗るまでには双方共に時間が掛かるとは思いますが、時代が要求しているのであればやるしかありません。 研究授業を参観させてください。
	ICT教育	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個人の端末を授業等で活用する場面を多く持ち、ICT教育の充実を図る。(電子教科書、スタディサプリ、google classroomなど) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度から新型コロナウイルスに対応するためにはじめたオンライン授業のスキル向上のために、今年度も定期的実施し、ほぼ全職員がICTに対する意識とスキルを高めており、今後、様々な緊急時に対応できるのではないかと考えられる。 スタディサプリでは、教員側も使い方に慣れ、積極的に宿題を配信し、生徒が動画を見る環境を作った。また、学び直しにも活用している。 授業では、初めの時間に教材に関係のある動画をスマホで見せ、生徒の興味関心を高めた。今後もスマホの使い方を広げていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍という状況をプラスに変える意味でも、オンライン授業への取り組みは評価されると思います。また、継続し、スキルアップを図ることが大切だと思います。 コロナ対応などで、オンライン授業にも早期に取り組み、子供達も対面、オンラインの両方をバランス良く取り入れてもらい良かったと思います。 先生のご指導で、スマホの授業中の使用が認められ、教材の一つとして活用されることは良いことだと思います。ぜひスマホを使った授業を今後も行ってほしいと思います。 ICTを活用した教育への推進に期待します。 非常時にオンライン授業の設備を整えた学園の対応は立派です。便利な道具だったかもしれませんが、人間は機械ではないのですから、目を見て対面し、表情で何かを感じ、対話することが大切だと思います。
②進路指導の充実	就職指導	<ul style="list-style-type: none"> 3年後の就職を意識させ、3年間を見通した指導計画を提示する。 徹底した面接指導及び基礎学力の充実を図り、希望する会社への内定を勝ち取る。 企業説明会の充実 <ul style="list-style-type: none"> 企業に来校していただき、生徒が希望する企業から説明を受ける機会を設ける。(5月12社予定) 行政機関等の主催する各種企業説明会に生徒を参加させる。(年2回予定) 民間主催のオンラインによる企業説明会に積極的に参加する。(5月連休明けから実施) 企業訪問や卒業生、行政機関、企業採用担当者等の講話を通して、企業への理解を深め、社会人になることへの意識高揚を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりにあった丁寧な就職指導により、生徒は個人の能力や適性にあった就職先を選ぼうとしている。 卒業生や企業の人に来校してもらい個人的に指導、アドバイスを受ける場は効果的であり、継続すべきである。 オンラインによる企業説明会が積極的に行われ、日頃のICTを利用した取り組みが、十分に生かされた。 ホテル等の接客業の求人が多少増加したが、今後も急速に回復するとは思われないので、職種に対する意識付けの指導を工夫し、時間をかけて行いたい。 2年生への企業説明会が行われ、少しずつはあるが就職について具体的に考えられるようになり、意識の向上にともなって、学習に力を入れる生徒も増えてきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 就職指導については先生がとても熱心で、いろいろとアドバイスをしていただきました。夏休み中の面接指導や就職試験に向けてのテスト対策等、毎日の繰り返しの練習で本人の自信にもつながり、会社訪問や就職試験当日には落ち着いて対応できていたようです。 会社説明会を学校で開催していただき、また外部開催の企業説明会への参加を積極的に参加するよう指導していただいたため、子供の社会人になるということへの意識も良い方へと変わってきました。 女性が活躍する社会への育成に努力していただけていることが心強いです。 いただいた内定資料では、コロナ禍にあっても着実に実績をあげていることは、さすがと感じます。 公務員を目指す生徒のサポートをお願いしたい。

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
②進路指導の充実	進学指導	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学&中堅以上私大6名以上（一般・推薦・総合選抜を問わず） ・高3生への面接・小論文指導強化「チューター制（同じ教員が担当）で行う」 ・学力向上、進研模試で全国偏差値50以上の生徒を、大進・中高各クラス10%以上（特進は65%以上）育てる。 ・基礎力診断・スタディサポート・サプリア到達度テストの事前準備・結果データの活用を強化し、Dゾーンを減少させる。 ・スタディサプリア活用強化（動画、テキストを利用して定期試験に組み込み、学年として推進する） ・各生徒への個別学習指導（特に意欲の高い生徒や上位層の生徒に学習の機会や場を提供する） ・学習習慣定着（スコラ活用強化） ・進路目標づくりの充実（現在実施中の目標設定課題・進路G・適性検査・進路調査を融合させる） 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立や私大の上位校合格の数を出すには、推薦・AO入試対策を徹底することが近道である。近隣の中学生が本校に期待するものを分析して、いろいろ取り組んでいきたい。 ・スタディサプリアの導入は予想以上に定着したと思われ、英語・数学では、教科担当が授業や朝学習で取り入れ、生徒が活用できるように工夫している。今後、サプリア到達度テストの結果が出たら、有効活用していきたい。また、基礎力診断テストを併用し、学力レベルの確認を行った。 ・学力層の幅が広いので、各自に合わせた指導が求められる。1年次から高い目標を持っている生徒を中心に、個別に指導をする時間を多く取りたい。 ・希望を聞くと安全策を好み、早く、できるだけ努力せずに手を打ってしまう場合が多い。親も子供に任せていると言う。進路に向けた意識を改革する教員主導の強い指導が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年の間は漠然とした進路しか決められなかった生徒も多かったと思うが、3年になってからは大学、専門学校、就職と、それぞれの適性を見極めて導いてもらい助かった。 ・学力レベルアップにつながる学びとして、個別授業が進められたら良いと思います。 ・国公立大学、難関私立大学への合格者増に向け、指導にご尽力願いたい。 ・他校にはない調理栄養科、美術造形デザイン科があるので、それに関連した進学がもっとあってもいいのではないのでしょうか。本校の売りになると思います。 ・埋もれた能力を引き出してあげてください。自分の良さや能力に気付いていないから無難な方向に行くのではないのでしょうか。
③生活指導の充実	礼法指導	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報収集→まとめ→分析→報告」を確実にやり、教師相互の共通理解を図り、指導にあたる。 ・一報を通して迅速な情報共有に努め、対策を講じる。 ・礼法教育の実践として、次の指導を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①校長講話による「本校の伝統や心の整え方」の学習。感想を書くことによる振り返り ②「your steps」に従った美しい所作（初期指導、礼法の授業） ③会釈、挨拶の励行（朝終礼や登校時、授業の前後） ④食事作法を実践できるような会食（姿勢や作法） ⑤校風向上週間やマナーアップを通しての清楚な着こなし 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「一報」は、関わりのないクラスや学年の生徒の情報を、多くの教員で速やかに共有し、理解することができツールとして、大変有効である。 ・講話で話していただいた内容を実践するところまで至っていない。礼法教育をしっかりやっていますと胸を張っていえない。 ・「Your steps」をHR活動で利用する機会がなかなかない。HR活動年間計画などに入れていくように検討したい。 ・現在の「会食」は、忘れ物がないことだけに特化しているように思われる。教員・生徒共に「会食」を実施する意義を改めて確認し、積極的に実施していきたい。 ・目を合わせて、にこやかに挨拶できる生徒が少なくなっている。初期指導の時間をかけ、徹底して基本を身につけるよう指導する必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「葬儀の際の数珠の持ち方」「割りばし袋のたたみ方」など、私の知らない作法なども子供から教えてもらえた。社会に出て、どれだけ日常的に使われていくかはわからないが「知っていることは自分にとって財産になる」と実感できている。 ・会釈、挨拶は日々経験の積み重ねにより、自然に体になじみながら美しくなってくるでしょう。担任が朝礼時、週に何回か（1回2～3分）、生徒と共に注意しながらやってみたら如何でしょうか。 ・初期指導を入念にいただき、生活習慣を速やかに体感できることが望ましい。 ・就職試験や会社訪問の際にも、挨拶や目上の方への受け答え等、落ち着いてできたと伝えていました。 ・マニュアル、ルールだけにとらわれず、「気配り」や「エチケット」等、精神的なものだと思うので、もう少し温かいものを感じたい。 ・礼儀作法をわかまえていることこそがかっこよい!!ことだと教えてください。
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・「順心生としての自律」をめざして次の指導を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①清掃活動や整理整頓を通じた環境美化。私物の管理や清潔な生活感覚の育成（スマホについては朝終礼時に確認をする） ②週番活動を通じた校風高揚に貢献する姿勢の育成 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動や整理整頓について、もっと丁寧な指導していきたい。目の行き届かない部分がある。 ・清掃活動について、昨年度マニュアルの研修があったが、指導方法が定着していない。 ・スマホの校内持ち込みが許可され、懸念された校内での使用という違反があった。その都度セルフコントロールの意識を高めるように指導を行い、現在は比較的落ち着いてきた。 ・週目標が毎週同じような内容になっており、生徒の礼法面での停滞を感じる。愛校心の涵養を目的としたデコ入れが必要ではないか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内がいつもきれいに清潔に保たれているのは、清掃活動のおかげだと思います。 ・清掃、整理も得意であれば一目置かれます。誰にも負けない何かに清掃、片付けはあります。 ・清掃活動や週番活動など学年を越えて協力していることは、とても良いことだと思います。 ・スマホ使用には十分な配慮を持って御指導ください。学校から離れたところになると（特に帰り）使用したくなる傾向があります。特に厳しいご注意が必要です。

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
④情報発信の充実	学年通信 学級通信	<ul style="list-style-type: none"> 通信を保護者とのコミュニケーションの一つとして捉え、学年・学級の状況を伝える。〔月1回の発行〕 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年・学級通信の月1回の発行は、ほとんどできていない。今後コミュニケーションをとるための通信方法を考え、改善を図りたい。 スタディサプリの機能を利用して、学年・学級通信をPDFファイルで通信することも可能である。 学級通信は保護者との良いコミュニケーションツールではあるが、生徒から確実に保護者の手に渡り、目を通していいのか疑問である。読んだかどうかを確認するシステムを導入したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との意思疎通を第一と捉え、教員の熱意を示すためにも月一回の通信にご尽力ください。 学級通信や学年通信は学校の様子が見えるため出させていただきたいと思います。 成績表、テスト個票の提示が遅いと思います。定期テストの後もなかなか個票を目にすることがなく、子供の学力程度がよくわからない。
	HP・SNSの活用	<ul style="list-style-type: none"> ホームページによる情報発信のタイムリー性と実用性の向上 本校公式フェイスブック、インスタグラムの設立、効果的な活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> 行事ごとの情報の提供、ホームページへのアップは滞りなく、素早く行われている。 情報提供の回数が増え、内容が豊富になる分、保護者との距離感も近くなり効果がある。 本年度より学校公式インスタグラムが開設された。今後、活用方法を探っていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> HPの取り組みはとても良く、読みやすいと思います。 素早い情報発信の対応に嬉しい限りです。 プライバシーの問題もあるかと思うが、欲をいうともっとたくさんの写真など、子供が学校生活を楽しんでいる様子を見られたらうれしい。
⑤健康管理	健康管理 保健教育 健康相談	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を含めた日常の健康観察の実施（個人健康観察表・クラス健康観察カード） 新型コロナウイルス感染症に対するガイドラインの作成と状況に合わせた検討 健康相談の充実を図り、生徒の支援を行う。その際、必要に応じスクールカウンセラーとの連絡を密にする。 感染症等の状況や生徒の成長、実態に即した健康教育の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染予防のために全職員が意識を統一して生徒の指導に当たることができた。健康観察、動向調査を継続的に行い、全体の状況が掴めている。 コロナ感染予防に関しては、できることを十分にしているが、コロナ慣れからか、マスク着用の不備などが抜けているところも見られた。一人ひとりに意識付けできるように保健だよりなどを活用していきたい。 カウンセリングを必要とする生徒が増えているのであれば、カウンセラーの来校回数を増やせないだろうか。カウンセリングを受けることで、生徒の違った視点からの情報を得られ、生徒指導に役立っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での生徒指導に当たり適切なアドバイスの成果と思われ感謝です。 デルタ株が流行し、コロナ感染症対策に苦勞されたと思いますが、大変しっかりやっただいて良かったと思います。まだしばらく続きそうなので、今一度基本的な手指消毒、マスク着用等の呼びかけが必要です。 電車通学やスクールバス通学の子供が多い中、よく感染予防がされて、クラスターにならないよう努力されたと思います。 他校がいろいろな行事を中止せざるを得ない状況の中、順心は子供達の楽しみを減らさないでくれたこと、去年と比較して、対策の徹底により思い切って行事などを行ってくれたことは高く評価したい。
⑥安全管理	避難訓練 防災体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 危機意識を高めるための地震と火災の避難訓練の実施（7月、11月） 集団下校訓練を行う。（7月） 消火訓練、救急対策講習会などの訓練を通し、職員の意識向上を図る。また、職員の役割分担の周知、徹底を図る。（7月職員研修実施） 	A	<ul style="list-style-type: none"> スマホを利用した生徒によるハザードマップ作成は初めての試みで、危機意識を高める上で効果的であった。このことを保護者に伝え、保護者からのフィードバックがあるとよい。 研修により、ふじのくにジュニア防災士の資格が取得できたことも、生徒のモチベーションにつながった。 避難訓練（器具）の説明や消火訓練が実際に行われ、職員の意識が高まった。職員の役割分担も示され、具体的にイメージできるようになった。次回は、この役割に沿った訓練を実施したい。 グラウンドで使用できるようにAEDが設置され、より安心できるようになった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 命をつなぐ一途としてスマホ活用は大いに賛成です。 スマホを利用した生徒によるハザードマップ作成はすばらしい試みでした。 避難訓練は「自分の身は自分で守る」という危機的意識を向上させ、災害緊急時落ち着いて講堂ができるように生徒の安心、安全のために訓練は実施してください。 地域の防災訓練もコロナのためなくなり、高校で行う訓練へ参加し、コロナ中の防災意識を高めて欲しいと思います。 避難訓練時に、AEDの使用の仕方、救護の仕方など、子供達に積極的に参加させて欲しい。将来、医療系、消防系などへの進路希望者が増えたり、災害時には地域での戦力になると思います。 隣接する幼稚園と合同で訓練をして「人を助ける」意識が高まると良いと思います。